



検討会へ参加した関係者＝宮崎市

民など、個々の果たすべき役割を踏まえつつ、当該地震への対策に万全を期す必要があるとされたところである。また、林野庁においては「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討委員会」において技術的観点から海岸防災林の再生方針が策定されたところである。

このため、九州森林管理局においても津波などの減勢効果などを発揮する海岸防災林の整備などに向け検討会を開くこととしました。

1日目の検討会では、中山浩次計画保全部長から海岸防災林の整備は喫緊の課題であり、今回の検討会を契機として、海岸防災林についての知見を深めていただくとともに民有林・国有林連携した取組を推進していただきたいと挨拶がありました。続いて林野庁業務課村上卓也課長補佐から平成26年度林野予算の概要や東日本大震災により被災した海岸防災林の再生方針などの報告がありました。その後、独立行政法人森林総合研究所気象環境研究領域気象害・防災林研究室坂本知己室長から「海岸林の整備にあたって―海岸林の機能と維持管理―」と題して、海岸林造成の歴史や海岸林の整備手法などについて講演いただきました。引き続き独立行政法人森林総合研究所九州支所山地防災研究グループ萩野裕章主任研究員から「海岸林と人工砂丘の基本的な防災機能および機能の経年変化について―防風・飛砂抑止機能を中心に―」

(担当 川治山課)

津波等に対する海岸防災林整備方針検討会開催
宮崎・鹿児島等自治体及び国有林関係職員が参加

11月7日～8日の両日、九州

した。

森林管理局では「津波などに対する海岸防災林整備方針の検討会」を宮崎市及び鹿児島県東串良町において開きました。

検討会には森林総合研究所から講師を招き、宮崎県、鹿児島県などの自治体関係者及び林野庁、森林管理局、関係森林管理署担当者など約90人が出席しま

東日本大震災以降、津波などに対する国民の防災意識が高まるなか、政府の中央防災会議では南海トラフ沿いで発生する巨大地震・津波については、仮に発生すれば西日本を中心に甚大な被害をもたらすだけでなく、影響は我が国全体に及ぶ可能性があり、行政、企業、地域、住

2日目は鹿児島県東串良町内の海岸林において現地検討を行いました。出席者からは、今回の検討会の内容を踏まえ海岸林の整備に活かしていきたいなどの意見があり、充実した2日間の検討会を終えました。

今回、海岸林の飛砂抑止機能などについてご講演いただきました。また、宮崎県、鹿児島県及び森林管理局の担当者から海岸林の整備などの取組に関する報告がありました。その後は宮崎市内の海岸林に会場を移し、民有林及び国有林の現地検討を行いました。



海岸林について検討する関係者



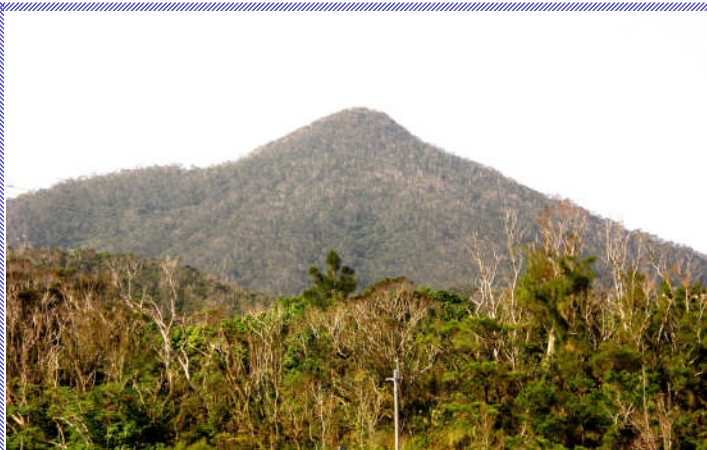
沖縄森林管理署

高江森林事務所

首席森林官 福田 錦吾

沖縄本島北部の山や森林など自然が多く残っている地域をやんばる(山原)といいます。今回はその、やんばるの国有林に所在する伊部岳352峠を紹介いたします。

沖縄本島北部の太平洋側を走る県道70号線を、東村から国頭



県道70号線から見る伊部岳の眺望

希少野生動植物が多く生息 「伊部岳」352峠

村方向へ進むと県道沿いに、伊部岳実弾射撃演習阻止「闘争の碑」があります。この石碑が登山道入口の目印です。この石碑は、1970年12月に伊部岳周辺での米軍による実弾射撃訓練を阻止した行動をたたえるため、国頭村の村制100周年事業の一環として、2009年8月に伊部岳を望む県道沿いに建てられました。

ここから左に林道が入っていますが、道幅が狭く荒れているので、車は石碑の所に駐車し、ここから登山がはじまります。林道を少し歩くと伊部岳の全景が目の前に姿を現します。しばらくその姿を楽しみながら進んで行くと、自然豊かなやんばるの森の中に入っていきます。



伊部岳へ通じる登山道入り口

駐車場から歩くこと10分位で登山道入口に着きますが、ここから山頂までは急な登りが続くので、休憩しながら50分位かけて登ります。山頂は、10人余の人が一度に休憩できるほどの広さがあり、眺めもすばらしく、自然豊かなやんばるの森が眼下に広がり、その先には太平洋を望むことができます。



県道沿いに設置された「闘争の碑」

伊部岳周辺の国有林は、国内希少野生動植物種や国指定特別天然記念物に指定されているノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナゴコガネに代表される希少種が数多く生息している地域であることから、鳥獣保護区の特別保護地区に指定されています。

また、伊部岳周辺では、国有林内に生息・生育する希少な野生動植物の保護管理をより積極的に推進するための「希少野生動植物種保護管理事業」を平成14年度より行っています。このように伊部岳周辺の国有林は、自然豊かで希少野生動植物が多く生息している地域なので、運がよければヤンバルクイナなどの国指定特別天然記念物と出会えるかもしれません。

協働ミヤマキリシマの保護活動

【大分森林管理署】大分県が設定した「第7回くじゅうの自然に感謝する日」に、ミヤマキリシマ群落地のくじゅう連山扇ヶ鼻において、ミヤマキリシマ群落の維持・回復を目的にノリウツギなどを切り除く作業を行いました。作業には環境省くじゅう自然保護官事務所、大分県山岳連盟、NPO法人久住高原みちくさ案内倶楽部など36人が参加。約1.5haの区域を完了。当署では、くじゅう連山のミヤマキリシマ群落を後世に引き継いでいけるよう、今後も関係機関・団体との連携・協働でミヤマキリシマの保護活動に取り組んでいくことにしています。



作業するボランティアのみなさん!!大分

野島九州財務局長が屋久島署管内視察

屋久島の貴重な自然遺産地域に感動

11月14日から15日にかけて、



国有林を視察される野島局長＝屋久島

野島透九州財務局長が川端省三九州森林管理局長の案内で屋久島署管内の国有林などを視察されました。

野島局長は、屋久島の世界自然遺産地域、特に、屋久杉が成育する自然林などに強い関心を寄せられていたことから、交流のあった川端局長から、この機会に屋久島署管内の国有林、現地の森林や林業、流通などの現況把握のため、是非訪れてみてはと話をされたことがきっかけで、当地を

訪問されることとなったものです。

屋久島を巡る

一日目は、雨が多いとされる屋久島ながら秋晴れのさわやかな気候の下、遠く開聞岳も見ることができました。心地よい涼風が吹き抜ける自然林の中を進み、遺産地域指定の普遍的価値の要素の一つとなった屋久杉の代表的巨木である縄文杉を始め、大王杉や夫婦杉、名前も付いていない巨杉、秀吉の時代の切株とされるウィルソン株などの荘厳な天然杉のすがたを眺める一方、つるつるとした赤い肌のヒメシヤラ群落など、杉とはまた違った趣のある数々

の巨木が佇む屋久島の幽玄な自然林を間近に見て、清新な空気と新たな感動に包まれた一日となりました。

二日目は、屋久島の自然遺産地域の普遍的価値とされるもう一つの要素、標高差がもたらす亜熱帯から亜寒帯の気候による植生変化の垂直分布が見られる西部地域の展望個所を視察いただきました。その後、大川の滝、千尋の滝を経て屋久島森林管理署が管理する安房地区春牧の貯木場を訪れ、今では資源量が少なく希少となった屋久杉土埋木の集積を見ていただきました。ここでは、土埋木のほか人工林杉の丸太集積も直に見ることができ、土埋木の特徴や価値、

品質、一般材との違いのほか、流通の状況などについても熱心に耳を傾けられました。

最後に、安房の屋久島森林管理署に立ち寄り、庁舎の各所にふんだんに使用された木材の暖かみのある感触に触れ、木材の需要拡大の話題や国有林の果たす役割など業務の概要について、説明を受けられました。二日間という短期間ではありましたが、屋久島の貴重な自然遺産地域に接し、改めて多くの感動を得るとともに森林管理署の業務の一端を見ていただいたことで、双方ともに充実した視察となりました。

(担当) 計画課

自然遺産保全調整官

「市民と松原の相利共生の文化の創造」を目指し

佐賀県唐津で「自然豊かな、安心安全なまち」をさらに進化させることを目的に、私たちKANNE(かんね)は平成18年にNPO法人として設立いたしました。

虹の松原保護対策協議会よりの委託を受け、虹の松原再生保全



NPO法人唐津環境防災推進機構 理事長 高部 生部 さん

活動推進団体を担当させていた

「白砂青松」を

目指し松葉かき

を併せて行い、参加いただいた皆様から好評をいただいております。

今では会員は50人、虹の松原の再生・保全活動の登録は156団体、5700人で、虹の松原へ心を込めての恩返しにと、

しかし今、私たちのライフスタイルが変わってしまい、その恩恵になかなか気が付かないという現状がある中、保全のためのボランティア活動だけではなく、松原内でのイベントや散策事業を併せて行い、参加いただいた

皆様から好評をいただいております。その中で、市民のための虹の松原だと強く意識して頂いている方から、副産物である松葉や松ぼっくり、落枝の活用について古来の手法やまったく新たな案など、さまざまなお意見を預かります。

特別名勝である「虹の松原」

を併せて行い、参加いただいた

皆様から好評をいただいております。

「ゴイシツバメシジミ」保護管理調整会議を開催

熊本県の内大臣峡と市房山に生息する希少種

11月11日に熊本県水上村市房山キャンプ場会議室において、九州森林管理局及び関係署のほか、三枝豊平九大名誉教授、杉本美華九大総合博物館専門研究員、環境省、熊本県、水上村、山都町、ゴイシツバメシジミの郷を守る会の関係機関が参集し、ゴイシツバメシジミの保護管理に係る調整会議が開かれました。

ゴイシツバメシジミは、現在、熊本県の内大臣峡と市房山のみに生息が確認されるチョウで、絶滅が危惧されています。

会議では、冒頭熊本専門研究員からゴイシツバメシジミの生態や特徴などについて説明があった後、関係機関などからそれぞれ、ゴイシツバメシジミの保全のために取っている取り組みについて報告がありました。

その後、行われた意見交換でも、今も実家に残る祖父が手作りで作ったユス（イヌノキ）の木力の強靱さと褐色の深い色合いに魅せられ、その頃から少しずつ森林の育成や材料としての木の利用方法、伝統的な構法の木造建築に興味を持ち始めた。



市房山キャンプ場で開かれた調整会議

は、三枝名誉教授から「ゴイシツバメシジミは現在絶滅寸前である。守るためには増殖施設の

設立が必要だ」などの意見が出され、今後、関係機関のより一層の連携が確認されました。

(担当：川口画課)

地域住民等とグリーン活動を実施

【熊本南部森林管理署】人吉市大畑矢岳校区衛生連合会主催の不法投棄回収活動に職員約20人が参加。当日は、地域住民や関係団体など約80人で大畑町内やループ橋周辺において、不法投棄された大型ゴミや空き缶などを回収。拾ったゴミは2ストラック約3台分となり分別後、市内のゴミ処理場へ運びました。



ゴミの分別を行う参加者＝熊本南部



田畑健太郎さん

国有林モニターに応募した背景には森林に関わる仕事とはどのようなものなのかを知りたいと思った学生の頃、父が所有する山の間伐を手伝った経験や、

森林について感じる思い

今回、市政だよりで国有林のモニター募集を知り、国が実施している森林に対する取り組みがどのようなものなのか、興味本位で申込をさせていただいた。学生時代、「森林への招待（西口親雄著）」を読んだ。今は至る所に存在するスギ、ヒノキは、

どちらかといえば尾根すじとか岩盤の露出した土壌条件のわるい地域に小さな集団で生息し、日本の暖・温帯の森林は本来はシイ・カシなどの照葉樹とコナラ・ミズナラ・ブナを中心とす

さまざま要因で人工林生産の循環を保てていない山は陽が入らず暗い。

現地視察させていただいた綾プロジェクトのように人工林を原生林に戻していくということも大切なことかもしれないが、やはりこれまで脈々と続いてきた木材生産の循環を戻す取り組みが日本には必要だと思う。

最後に、先日綾町で開催された国有林モニター会議に参加し、綾の照葉樹林のさまざまな樹種に囲まれ何とも言えない心地良さと明るい雰囲気を感じる事ができた。また、他の参加メンバーの方々が普段から森林に関心を持つだけでなく実際にさまざまな活動を行っていることを知り、自分にも何かやることがあるのではないかと考える良いきっかけとなった。

(大分県大分市在住)

業従事者離れや少子高齢化など

現在は、高度経済成長期の林業従事者離れや少子高齢化など

最後に、地元連合会支部長から不法投棄回収協力のお礼の挨拶がありました。

屋久島世界自然遺産登録 20周年記念事業開催

屋久島世界自然遺産登録20周年を記念した各種行事が、11月

23日、屋久島町宮之浦の離島開発総合センターで行われ、会場は一杯の参加者で埋まりました。

はじめに、これまで屋久島で活動を行ってきた8団体・個人からの報告として、屋久島世界遺産地域科学委員会の矢原徹一委員長、屋久島生物多様性保全協議会の手塚賢至氏、町内小中高校生などから活動報告が行われました。続く後半には、主催者挨拶に続いて来賓祝辞があり、この中で林芳正農林水産大臣からの祝辞を沖修司国有林野部長



記念式典で挨拶を述べる荒木屋久島町長

が代読されました。

その後、女優の壇ふみさんのコーディネートにより、伊藤祐一郎鹿児島県知事、荒木耕治屋久島町長、地元の高校生などが参加して、登録20周年を振り返るの思いや今後の屋久島の保全と利用などについてトークセッションが行われました。今回、荒木町長からは、入島税の徴収を町長在任中に果たしたいとの強い意向も示されました。

屋久島は、1993年12月に世界自然遺産登録が行われましたが、登録効果もあって、その後急速に来島者が増え、交通機関の整備、宿泊施設の増加やインフラ整備が進み経済発展に貢献しました。一方で縄文杉登山ルートの一極集中化に見られるような、自然環境への影響やトイレ問題、登山そのものの質的あり方、入山料の問題、シカ被害の問題などさまざまな問題が発生して、将来の屋久島がどう進むのか大きな課題として残されています。イベントの最後は、屋久島町民を代表して荒木耕治町長と若者達により、「屋久島

からのメッセージ」で締めくくられました。

「荒木町長と若者達のメッセージ」（一部省略）

「20年前屋久島が、人類の遺産として評価され世界自然遺産に登録されたことを心から喜びました。この島に寄せられる思いは多種多様であり、原生林の保全と活用について葛藤がありました。望んだことは、この島の正しい位置づけと活用でした。」

世界自然遺産登録を契機に、自らの思いを屋久島憲章として定め、その理念と目標を掲げました。この島の将来を展望し、熱心な議論の繰り返しを経て屋久島町が誕生して6年。屋久島は、無限の生命が循環と共生を繰り返す生命の島、人々に感動を与え続ける不思議な潜在力を秘めた島です。自然の営みに身を委ね、自然を畏怖し敬虔と感謝の念で島人が生き、無限の生命と共生する思いで培ってきた伝統や文化が、生き続ける島でもあります。

世界自然遺産登録から20年の歩みの中で、この島が抱える諸問題の本質を見極め、屋久島にふさわしい島づくりに邁進したい。責任を負うものとして次のことをお約束し、国、県を始め



メッセージ披露した荒木町長と若者

屋久島に関わるすべての方々にこの島の保全と活用について、お力添えをお願いします」と挨拶の後、若者達から、次のようなメッセージ（一部）が披露されました。

○世界自然遺産登録地域の保全と活用について、島に関わるすべての団体や個人が、協力する屋久島独自の仕組みを確立する。

○生命の島として高く評価され、命あふれる自然資源を観光立町の永久の資産として、次世代に残すため、その運用や観光のあり方を屋久島ルールとして確立する。

○屋久島の歴史、伝統文化を活かすそれぞれの集落や団体の取組を継承し、島ならではの地域振興と産業振興を推進する。

（担当）計画課

自然遺産保全調整官

「世界自然遺産」を素材に森林教室

【屋久島森林生態系保全センター】屋久島町立中央中学校の依頼を受け中学2年生57人を対象に森林教室を行いました。これは、屋久島の教育的資源である「世界自然遺産」を素材として屋久島の自然や歴史、文化を学び、その価値を理解し、継承や保護に努めることを目的とした「屋久島の森林に関する学習」の一環。講師の猪島浩晴生態系管理指導官は、①屋久島の森林や生態系の現況②屋久島の国有林の歴史と現状③屋久島の森林と人との関わりについて、プロジェクトを使って説明。生徒らは真剣に耳を傾けていました。



真剣に学習する生徒ら＝屋久島保全CC

平成25年度
国有林野所在市町村長有志連絡協議会を開催
～真ブロックから代表市町村長と森林管理署長が参加～

11月26日に九州森林管理局2階大会議室において、国有林野が所在する市町村との連携を一層推進し、地域の声を国有林野事業に反映させていくことを目的に、各県ブロックから代表市町村長と代表森林管理署長、九州森林管理局局長をはじめとした関係職員参加のもと「平成25年度国有林野所在市町村長有志連絡協議会」を開きました。



平成25年度有志連絡協議会を開催

連絡協議会では、川端省三九州森林管理局長から、「日頃から国有林野事業の推進に對しご理解とご協力を賜り感謝。各県ブロックでの会議では最近の情

勢などの報告をさせて頂いた。九州の森林・林業の現状は、全国に先駆けて資源の成熟、充実そしてそれに伴う本格的な伐採期が到来している。

全国的には、川上では間伐を中心に森林整備や集約化、川下では公共建築物木材利用促進法に加え木材利用ポイントや木質バイオマス発電などに取り組んできたところ。

九州の森林・林業に対する期待の高まりに「公益的機能の一層の発揮」「森林・林業の再生への貢献」といった2本の柱を中心に据え、九州森林管理局が先頭に立ち、地域の皆様と一緒に資源を森林・林業の発展、地域振興など、地域への貢献につなげてまいりたい。

また、国有林野は今年4月より特別会計から一般会計に移行され、地元の皆様とより一層連携し、ご期待にお応えする九州森林管理局として頑張っていく考え。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて、林野庁から出席の百



冒頭挨拶をする川端局長

引き続き、九州森林管理局から吉本昌朗企画調整課長が「九州次世代林業研究会」、矢野彰宏森林整備部長が「木質バイオマスの利活用の推進」、中山浩次計画保全部長が「シカ被害対策の取り組み状況」といった、九州における最近の情報提供が行われました。

その後、代表市町村長から、各県ブロックで開かれた有志協議会も踏まえ、最近の地域における課題や取り組みについて発言をいただき、シカやイノシシなどの獣害被害や松食い虫被害の対策、地震や豪雨などの自然災害への対応、観光資源の掘り起こし、大径材の需要開発・加工体制の整備、木質バイオマスへの対応、作業道の共有化など地域の実情を踏まえた議論が行われました。特に、木質バイオマス発電における対応では、今後の需給の逼迫に向けて民国連携したさらなる対応が必要であること、獣害被害対策では、森林管理局と農政局が連携した取り組みが必要であること、などについて議論が深掘りされるなど、非常に有意義な意見交換となりました。最後に、川端局長から九州森林管理局としてもちうした課題に今後ともしっかりと

と取り組んでいくとの考えが示され、閉会となりました。
(担当：企画調整課)

「人吉・球磨自然観察会」を開催

【熊本南部森林管理署】環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、「大畑国有林周辺で見られる植物」をテーマに第3回森のセミナー「人吉・球磨自然観察会」を行いました。約30人の参加者は、人吉市の大畑国有林沿いの旧道を散策しながら草本類やシダ類などを観察しました。今回は、植物の種類も多く、乙益講師の植物にまつわる昔の暮らしや薬効などを交えた説明があり、参加者は熱心にメモを執りながら学習していました。



説明をする乙益講師 熊本南部

甲佐町立龍野小学校へ森林教室

「龍野小の自然博士になろう」3年生15人が参加

技術普及課では、甲佐町立龍野小学校からの依頼を受け、監物台樹木園において3年生児童15人を対象に森林教室を行いました。今回の森林教室は、「龍野小の自然博士になろう」の総合的な学習の時間に伴う学習として社会科学見学も兼ね、樹木園を訪れたものです。



熱心に樹木を観察する児童ら

まず、子供たちの緊張をほぐすため、ネイチャーゲームを行い、その後、樹木名クイズを出題。クイズに出された樹木を観察し、名前の由来や用途、特徴などについて説明すると、葉っぱを触ったり臭いを嗅ぐなど興味深そうに聞き入っていました。



職員の説明を聞く児童ら＝鹿児島

小学生が桜島治山工事現場見学会

【鹿児島森林管理署】鹿児島市立桜州小学校4年生27人と桜峰小学校6年生13人を対象に桜島の治山工事現場見学会を行いました。伊豆大島での土石流災

害をうけ、治山事業の役割や重要性について説明。光波測量や重機の試乗を体験し、長谷川上流の荒廃状況などを見て回りました。子供たちから、上流と下流の石に大きさの違いや、伊豆大島のような災害は桜島でも起こりますか、などの質問がありました。最後に、校長先生から来年の見学会のお願いがあり、会場を後にしました。



参加者全員で記念撮影＝西表保全CC

山を開始しました。途中マリユウドウの滝展望台やカンピレーの滝で休憩を取りながら12時頃に山頂に到達しました。山頂で昼食を取った後、全員で記念撮影や母校を眺望し、12時50分頃に下山を開始。途中、滑ったり転んだりしながら無事下山し、全員駐車場に到着しました。

【西表森林生態系保全センター】竹富町立船浦中学校のテドウ山登山が行われ、当センターも森林環境教育の一環として参加。参加者は、生徒27人を含め総勢67人となり浦内川上流の軍艦岩まで観光船で移動し、軍艦岩から目的地のテドウ山を目指し登

成への取り組みなどの情報提供と、国有林として民有林との連携・支援に積極的に取り組むことについて説明を行いました。

【熊本森林管理署】金峰山及び金峰山少年自然の家で熊本市立富合小学校5年生児童を対象に森林教室を行いました。午前中は保育間伐と枝打作業を行い、枝打作業は枝が落ちるたびに歓声が上がリ、間伐作業では、慣れない手つきで鋸を引き、木が倒れる瞬間には感動していました。午後からは本立て作りと丸太切り体験を行い、児童らにとっては初めてのことはかりで、全員が積極的に取り組み、森林を育てる苦労と大切さを体験できた有意義な一日となりました。

民有林の意見交換会に参加

【熊本南部森林管理署】熊本県球磨地域振興局主催の「意見交換会」が開かれ、関係市町村や森林組合、林業事業体の担当者約50人が参加。班を編成し、森林経営計画の策定状況などについてグループ討議した後、討議結果の発表と質疑応答を行いました。当署からは、生物多様性の保全や低コスト化、人材育



グループ討議をする参加者＝熊本南部



枝打ち体験をする児童ら＝熊本

平成25年 九州の国有林から

「国民の森林」実現へ いろいろな出来事がありました

新生国有林がスタートして10年目となりました。4月1日から一般会計の下での国有林野事業がスタートし、新たな「国民の森林」を目指し取り組んだ主な出来事を「広報九州」の中から振り返って見ました。

綾プロ連携会議及び事業説明会を開催

1月15日宮崎県綾町において、綾の照葉樹林プロジェクト第17回連携会議が開かれました。関係機関5者が出席。平成24年度事業取組状況、綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画推進協定の再締結（案）、平成25～29年度第Ⅲ期短期行動計画の見直し（案）について審議されました。また、同日地域住民約60人参加



第17回連携会議が行われる

の下、綾プロ関係機関5者により「生物多様性とプロジェクトの取組」と題して事業説明会が開かれました。

九州森林環境シンポジウムを開催

シカの生息数・生息区域が著しく増加・拡大したことにより、深刻な農林業被害、森林の生物多様性の劣化、植生の消失などに直面しており、シカがもたらす危機的な状況と対応策や、シ



九州森林環境シンポジウムが開かれる

カの捕獲を推進する上での捕獲したシカの有効活用をテーマとして、2月20日に熊本市のフーダル熊本で九州森林環境シンポジウムを開き、料理・農林業関係者、一般市民や行政関係者など約160人の参加がありました。

第2回西表島森林生態系保護地域 保全管理委員会を開く



西表島森林生態系保護地域について審議

2月12日沖縄県石垣市において、第2回西表島森林生態系保護地域保全管理委員会を開きました。日本最大規模のマングローブ林や原生的な天然林が分布しており、カンムリワシやイリオモテヤマネコなど多くの固有種や希少種が生育・生息している西表島の自然環境を保護し後世に遺していくため、「西表島森林生態系保護地域」の設定・区

域の拡充について審議されました。

一般会計での国有林野事業がスタート

第180回国会で成立した「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する等の法律」により、平成25年4月1日から、一般会計の下での国有林野事業がスタート。公益的機能のより一層の発揮や森林・林業再生への貢献といった国有林に求められる役割を十全に果たすため、国有林の内部組織が再編され、九州森林管理局の新たな組織・体制で「国民の森林」である国有林の管理経営に取り組んでまいります。

九州森林管理局長が交替

4月1日付けで平之山俊作前局長が林野庁林政課（林業・木材産業情報分析官）に転出し、後任に川端省三局長が就任し、4月16日、局長室にて就任記者会見を行いました。

木になる紙シンポジウムを開催

3月16日、福岡県福岡市において、木になる紙シンポジウム一枚の紙から考える森林・地域・循環が開かれ、全国から

約70人が参加。シンポジウムでは、藤掛一郎宮崎大学教授より「日本林業はいかに木材の価値を高めうるか」、肥後賢輔林野庁整備課長から、「木材利用の現状と課題」と題して基調講演が行われ、続いてパネルディスカッションでは、木材利用における社会のさまざまな立場からの協力や連携のあり方について議論されました。



木になる紙シンポジウムを開催

准フォレスト活動報告会を開く

各地域の取り組みや課題を共有し、課題の解決策などについて議論・意見交換をすることにより効果的な市町村行政の支援を行うことを目的に2月27日から28日、九州森林管理局大会議室において、「准フォレスト活動報告会」が開かれ、九州各



准フォレスター活動報告会が開かれる

県から准フォレスター30人と林業事業体の森林施業プランナー2人が参加しました。1日目は矢野彰宏九州森林管理局計画部長からの挨拶の後、准フォレスターや森林施業プランナーから現在、取り組んでいる活動事例の報告があり、それぞれに活発な意見交換を行い、2日目は課題別にグループで議論、発表し、全員で意見交換を行い共有しました。

川端新局長が就任記者会見

4月16日局長室にて就任記者会見を行い、九州森林管理局局長としての思いを3点にまとめ以下のとおり述べられました。1. 公益重視の管理経営の一層の推進。2. 低コスト・高効率な間伐作業システムの定着。3. 持

続的な主伐システムの確立。



就任記者会見を行う川端局長

平成25年度重点取組事項記者発表

5月31日平成25年度重点取組事項の記者発表が行われ川端省三局長から5月15日の本予算算成立を受けて説明する旨の説明の後、各担当部長から1. 一般会



林政記者クラブへ記者発表

計の下での国有林野事業。2. 公益重視の管理経営の一層の推進。3. 九州からの森林・林業の再生。の3項目について詳細な説明がありました。

島根県職員が低コスト造林を視察

再造林コスト削減の先進的事例地を視察し、「循環型林業」を推進している島根県の林業施策に活用するために、島根県職員3人が低コスト造林の取り組み状況について当局管内を2日間に渡り視察。1日目は、コンテナ苗を植栽した誘導伐箇所、伐採、搬出、植栽の一貫作業システムにおけるトータルコストの削減について、2日目は誘導伐箇所でのコンテナ苗植栽中の箇所を視察し、現地で作業をしている事業体と懇談し活発な意見交



低コスト造林現場を視察する島根県職員

換が行われました。

ブナハバチ被害で現地検討会を開く

6月13日に宮崎県五ヶ瀬町波瀬国有林2090林班及び五ヶ瀬ハイランドスキーセンターにおいて、ブナハバチ被害に関する現地検討会及び意見交換会が、九州森林管理局、宮崎北部森林管理署、森林総研九州支所、五ヶ瀬町、椎葉村、霧立越の歴史と自然を考える会、熊本森林管理署から17人が出席して開かれました。ブナハバチ被害及びシカ被害の状況の確認のあと、意見や質問を交わし、今後も被害調査を継続すること、被害地内で下層植生を回復させる調査プロットを設置することの確認がなされました。



ブナハバチ被害について現地検討する関係者(宮崎北部)

「巾着網はねむ」農林水産大臣表彰

当局の森林技術・支援センターで取り組んでいる「巾着網はねむ」が各地でキャバパンを開くなど普及活動に努めていることが評価され平成25年度農林水産大臣表彰を受賞しました



農林水産大臣表彰を受賞されたみなさん

准フォレスター研修はじまる

森林・林業再生の中核を担う准フォレスターを育成する研修が、7月29日より、熊本県市において、九州各県より県職員や国有林の職員合計83人が3グループに分かれ延べ2週間にわたる集合研修を11月までに修了する予定で開かれました。

1週目及び2週目の研修で得た知識・技術をもとに計画実現に向けた見直しや取り組み方策

を検討・発表し、研修の集大成とすることとしました。

九州各県庁との意見交換会を実施

平成25年度より民国連携の新設統括ポストとして業務管理官（次長）の就任に当たり、民国連携の取り組みをより一層、推進するため九州各県への挨拶回りとして意見交換会を行い、4月の熊本県を皮切りに、福岡県、大分県、宮崎県、佐賀県、鹿児島県を順次訪問し、技術交流の推進、木質バイオマス発電を取り巻く今後の課題、有害鳥獣対策、森林共同施業団地の取り組みなどを説明、各県からは具体的な施策の提案や、従前に増した国有林と連携の確保などの要望が提起され、有意義な意見交換会



意見交換会で挨拶をする上田次長

となりました。

第17回「森の塾」を開講

森林・林業の現状などの認識を深めると共に、環境教育における森林・林業の活用方法などについて学ぶことを目的に、8月2日監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭16人が参加し、「森の塾」を開講しました。



完成した作品を手にする受講生

第6回照葉樹林研究フォーラム開催

綾町での森林保全の取り組みの歴史と事例発表から綾町の現状を理解し、「綾ユネスコエコパーク」の未来を考えることを目的に、7月6日に宮崎県綾町において、「第6回照葉樹林研究フォーラム」が「照葉樹林の保全とユネスコエコパーク」をテーマに、100人以上の関係



第6回照葉樹林研究フォーラム開かれる

者などが出席し、各級機関から課題や事例の発表後、意見交換が行われました。

第98回九州林政連絡協議会を開催

第98回九州林政連絡協議会が8月27日と28日の両日、宮崎市において開かれ、林野庁から



第98回九州林政連絡協議会が開かれる

飯塚淳治山課水源地治山対策室長や九州各県や関係機関から約38人が出席しました。

一日目の会議では、会長の川端省三九州森林管理局長から「全国に先駆け主伐期を迎えている九州では、更新を踏まえた持続的な林業経営と木材のカスケード利用を各機関が連携して確立していかなければならない」と挨拶があり、続いて、「各県が連携した原木流通への取組」や「木質バイオマス発電計画と原料の安定供給への対応」について議論が行われました。

二日目は、林地残材などを原料としてペレット製造を行う宮崎ウッドペレット株式会社、木材加工技術の研究を行っている宮崎県木材利用技術センターを訪れ、実験設備などの見学を行いました。

第1回国有林材供給調整委員会開催

一般会計化に伴う新たな取り組みとして、木材価格急変時の供給調整機能を発揮するため、森林管理局に専門家からなる委員会を局に設置し、国有林材の供給調整の必要性、実施方法について検討するため、8月7日、九州森林管理局において、第1回の国有林材供給調整検討委員会を開きました。委員会では、

全国及び九州の木材の需給、価格の動向や国有林材の供給状況などを基に、木材価格について極端な動きがないか確認し、供給調整の必要性などについて検討しました。



第1回国有林材供給調整検討委員会開かれる

コンテナ育苗技術向上に向けた意見交換会を開く

低コスト造林に向けた取り組みとして、マルチキャビティコンテナ苗を国有林を含め一層の普及拡大と苗木コストの低減を推進していくため、これまでのコンテナ苗の実証結果と各県の生産者の育苗技術の向上に資することを目的に、8月29日～30日にかけて、熊本県南阿蘇村において「コンテナ苗の育苗技術向上に向けた意見交換会」を九州各県の樹苗生産組合、林務担当者、森林総合研究所、日

本森林技術協会、九州森林管理局の職員など約60人が出席して開かれました。



関係機関が参加し開催された意見交換会

奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会を開催

8月30日、「第2回奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」が鹿児島市内で開かれ、各



世界遺産推薦地域選定について協議される

分野の専門家で構成する委員が世界遺産推薦地域の選定などについて協議しました。委員会では事務局から世界自然遺産登録の条件を満たすための指標（希少種の種数、森林面積、植生自然度など）を示し、各島ごとの状況を説明しました。

第1回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカワーキングを開催

9月28日に新たな「屋久島世界遺産地域管理計画」が策定されて今年度初めての屋久島世界遺産地域科学委員会が開かれました。荒木耕治屋久島町長の挨拶の後、外来種対策や山岳部の利用のあり方について議論がなされ、中山浩次計画保全部長からは、「本年は、屋久島の遺産登録20周年の節目の年でもあり、貴重なご意見を踏まえて関係行



屋久島世界遺産地域科学委員会が開かれる

政機関の一層の連携を深め、屋久島の保護管理の取り組みを進めていく」との閉会の挨拶が行われました。

前日の9月27日には、ヤクシカワーキンググループの会議が行われ、屋久島において、生息数が急増するヤクシカの被害対策についても、議論されました。

「後世に伝えるべき治山」くよみがえる緑く九州から4箇所が選定



選定された雲仙・普賢岳の治山事業箇所

林野庁は、10月3日治山事業を実施して100年が経過したことを機に、「後世に伝えるべき治山くよみがえる緑」として全国で60箇所を選定。

九州森林管理局管内からは長崎県原市の「緑を復元した雲仙・普賢岳の治山事業」、長崎県原市の「土石流から住民を守る眉山地区治山事業」、宮崎

県宮崎市の「台風被害から山河を甦らせた鱈塚山系治山事業」及び鹿児島県鹿児島市の「土石流から生命・財産を守る桜島の治山施設」の4箇所が選定されました。

平成25年度森林の流域管理システム推進発表大会が開かれる

10月22日と23日の両日、九州森林管理局大会議室において「平成25年度森林の流域管理システム推進発表大会」を開き、九州各県の森林・林業関係者や九州の各県で森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など、延べ約340人が参加。発表は、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる森林・林業再生に伴う取り組み、流域林業の活性化や林業技術の向上、環境保護活動、森林環境



平成25年度システム発表大会が開かれる

教育、災害復旧・防災活動さらにシカ被害対策など多岐にわたる一般の部16課題、高校の部7課題計23課題の発表がありました。

平成25年度国有林モニター会議を開催

10月26日、平成25年度国有林モニター会議を宮崎県綾町で開催し、19人のモニターの皆さんが参加。国内最大規模の原生的な照葉樹林が残る綾の照葉樹林で、二次林を照葉樹林に復元する「綾プロジェクト」の概要などの説明の後、プロジェクトで間伐したスギの人工林、イチイガシなどで構成される照葉樹林、旧営林署製材所跡の現地視察を行いました。



平成25年度国有林モニター会議を開催

秋の全国火災予防運動消防訓練を実施

「尊い命と財産を守るため」

「消すまでは、心の警報 ONのまま」の全国統一防火標語のもと、11月9日から15日まで1週間の、秋の全国火災予防運動が行われました。

当局では、空気が乾燥し、火災が発生しやすい時季を迎え、火災予防の意識を高めるため、11月27日に局庁舎構内で、消防訓練を行いました。

当日は、雨天のため避難場所を2階大会議室に変更し、局庁舎を管轄している熊本市西消防署にご協力いただき、局職員は



初期消火の模擬訓練を行う

もとより、非常勤職員などを含め在庁者全員が参加し、火災発生時の通報や初期消火、避難誘導など本番さながらの訓練を真剣に行い、併せて、西消防署の指導のもと2階大会議室ベランダにおいて消火器を使った初期消火の模擬訓練の体験を行いました。

消防署からの講評では、放送設備が使用できない場合は大声で知らせることが大切であること、防火扉の開閉については、適切に対応されており良好であったこと、また、総務課からの火災発生を知らせる緊急放送及び一一九番通報は、とても落ち着いて大変良くできていたなどの講評をいただきました。

最後に自衛消防本部長の森脇和正総務企画部長が「火災が発生しやすい時季を迎え、火災を出さないよう防火意識を高め、尊い命と財産を守ることが大事です。本日の訓練を教訓に冷静に行動して下さい」とあいさつがあり、消防訓練を終了しました。

(担当：経理課)

船浦湾ビーチクリーンへ参加

【西表森林生態系保全センター】

西表島のビーチクリーン活動を行っている西表エコツーリズム協会の活動に継続的に参加しており、船浦湾で4回目のビーチ



船浦湾でクリーン活動＝西表保全CC

クリーンを行いました。今回は、カヌー組合のメンバーも参加し、船浦湾のマンクローブ林内にある漂着ゴミや船浦湾に接続するヒナイ川、西田川周辺の漂着ゴミなども回収。回収前は漂着ゴミが見える状態だった船浦湾がきれいになり、観光客からも喜ばれる景色になりました。

民合同の森林養護地検討会開催

【長崎森林管理署】長崎県東

彼杵町の国有林と民有林の現地で「森林作業道現地検討会」を行いました。今回は長崎県の県央振興局と合同で行い、お互いの森林作業道について、それぞれの考え方や作設方法などの検討を行いました。小雨の中、お互いの森林作業道の違いなどを



現地で作業道について検討する参加者：長崎



北海道から九州へ

九州森林管理局へ着任してから2ヶ月余りが過ぎた。国有林での勤務は平成18年度の北海道局勤務以来である。この間、森

地を知ることは何ものにも代え難い大きな意味を持つ。森林・林業を巡る動きは時代とともに移り変わり、そのスピードもますます速いものとなってきている。

林・林業を巡る状況は大きく変わり、林野庁をしばらく離れていたこともあり、その変化には驚くばかりである。

天然林採伐が主体であった北海道とは違い、スギ、ヒノキの人工林の施業がどのように行われているのか、やはりできるだけ多く見たいと思っている。また、生態系の保護などへの

取組を考えるにあたって、現

(計画課長 近藤昌幸)

森林・林業に関わる者として、自分の目で森林を見て、将来をしっかりと見据えた取組を行っていききたい。

木づかい啓発イベントへ出展

【宮崎北部森林管理署】11月3日、宮崎県森林林業協会主催による「杉コレ2013 in 延岡」が延岡市栄町商店街で開かれ、宮崎北部森林管理署も「木づかい啓発」イベントに出展しました。出店の品目は、クリスマスツリーに見立てた松ぼっくりにビーズなどの飾り付けの作成と、フォトコンテスト写真パネルなどの展示を行いました。当日は小雨模様の天気でしたが、多くの子供達は独自のアイデアでツリー作りを体験し喜んでいました。



ツリー作りを楽しむ子供ら＝宮崎北部

JICA研修生を受け入れ

【西表森林生態系保全センター】JICAによる集団研修で「住

民参加による多様な森林保全」コースの研修生11カ国から12人を受け入れました。沖縄県や西表島の地域概況などの講義を受け、サキシマスオウノキなどの保全現場を視察しました。研修生は熱帯地域の国から参加しており、西表島の現場などの視察では、気候や植生などに共通性などを感じ、さまざまな質問をしていました。西表島での経験が今後、彼らの活動に寄与できることが期待されます。



西表島の現地で記念撮影＝西表保全CC

保育園で森林教室を開催

【熊本南部森林管理署】多良木町「むつみ保育園」の依頼で当署職員による森林教室を開きました。当日は、保育園児30人と先生や職員がバスに便乗し、相良村のアポロ峠に到着。木の

葉を使い、樹木の種類について説明。午後から湯前町のグリーンパレスにおいて赤や黄色に色づいた葉っぱを使った貼り紙づくりやドングリのコマ回し、竹とんぼ飛ばし、ドングリ拾いと、園児たちは歓声をあげながら広場を駆け回っていました。

松浦地区公民館有志が現場視察

【鹿児島森林管理署】松浦地区公民館自主防災協議会のメンバー10人が桜島地区直轄治山事業箇所を視察。施工中の松浦川上流の現場で航空緑化工の現状や治山施設の状態などを説明。参加者からは、伊豆大島のような災害は桜島でも発生しますか。土石流が発生したらどこまで到達しますか。などの質問があり、最後に、今日の視察は有意義で、



現場を視察する関係者＝鹿児島

地元桜島を守るためにご苦勞をいただき感謝致します。などお礼の言葉があり、治山事業の重要性を肌で感じる一日となりました。

平成新山防災視察登山へ参加

【長崎森林管理署】雲仙普賢岳警戒区域設定などに関わる防災業務の一環として、島原市主催、九州大学地震火山観測センター共催で「平成新山防災視察登山」が行われました。この視察登山は年に2回行われ、関心が高く100人以上の参加者と報道関係者など多数の参加がありました。当日は、残念ながら積雪と濃霧のため、目的地の平成新山ドームを目前に登山は中止となり、参加者全員無事下山



視察登山へ参加したみなさん
＝長崎

し、雪化粧の普賢岳を見ながら帰路につきました。

地域と連携し「ゴミ活動」を実施

【福岡森林管理署】岡垣町の三里松原において、地域住民ボランティアと当署職員、総勢約60人が参加し、海岸線の松林や沿道のクリーン活動を行いました。一帯は、地元住民やサーファーなどの人気スポットの景勝地で、多くの人々に親しまれています。しかし、不法投棄されるゴミが多く悩みの種となっています。当日は、家電、家具など2トン余りのゴミを回収することが出来ました。今後も、地域と連携した活動を通じて「国民の森林」である国有林のPRに努めて参ります。



回収された大量のゴミ＝福岡

官民一体でクリーン作戦

【都城支署】当支署主催で11月26日「国民の森」クリーン活動の一環として、都城市吉之元町の霧島国有林内で不法投棄ゴミの回収作業を行いました。当日は都城市、都城土木事務所、熊本林業土木協会宮崎支部、都城・小林・えびの各地区林業協同組合、地区公民館などから総勢約60人が参加しました。約2時間の作業で、家電製品・古タイヤや空き缶など10ト余りのゴミを回収しました。当日は、地元マスコミの取材もあり、不法投棄の解消につながることを期待しています。



回収され分別される大量のゴミ 都城支署

JICA研修生を受け入れ

【西表森林生態系保全センター】国際協力機構（JICA）による集団研修の一環で「サンゴ礁をはじめとする沿岸生態系の保全とその持続的利用に関する総合研修」の研修生8人を受け入れました。研修生は6カ国から8人が参加しており、25日には「陸域の保全」ということで、サキシマスオウノキの保全現場を視察、その後、西表島のマングローブ林を含む森林などに関する講義を受けました。研修生



セリリョウは、赤い実が映えるので、以前はお正月の時期に生花が少ないことからお正月花として珍重されました。しかし、現在はお正月にはたくさんさんの生花がありますが、セリリョウの鮮緑色の葉と艶のある赤い実は、風格のあるお正月の花です。

半陰樹の生育に見えますが、南（屋久島、西表島）へ行くほど緑や赤色が増しているセリリョウを観察できます。

マンリョウとよく比較され、マンリョウはヤブコウジ科で実が葉の下に付き、セリリョウは



サキシマスオウノキの保全現場で記念撮影 西表保全CC

74 セリリョウ (セリリョウ科)

1属1科の植物で葉の上に実がなります。

花は複穂状花序で、花には花被がなく、花軸に緑色の子房と柱頭が合体したような雌しべが付き、その側面に薄緑色の雄しべが直接出る変わった姿をしています。

葉は対生ですが1対の葉が交互に出て、上から見て「十字」になっているので十字対生と言います。

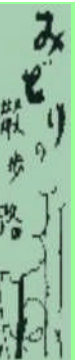
名前はマンリョウ(万両)に對するセリリョウ(千両)の意味です。金額で比較すると少額の方が人間には喜ばれているよ



人のうごき

12月1日付森林管理局長発令
鹿兒島署地域技術官
柏木和美（北薩署）

は沿岸生態系の保全などを担当する者が中心で、マングローブに関する講義は関心が高く、サンゴ礁だけでなく陸域の森林を含めた総合的な保全の重要性について理解が得られ、帰国後彼らの活動に寄与できることが期待されます。



この一年振り返ってみると、一般会計移行の準備に始まり、4月には正式に一般会計としてスタートした▼総務課関係では、適用法律などの違いなど戸惑う場面も多々みられ局・署間の連絡調整も慌ただしく月日が過ぎたように思える▼季節では短い春を経て、真夏の猛暑日が続き「暑さとの戦い」の日々であった▼また、台風は例年にもなると発生数は多かったものの九州への影響は殆どなかったのは幸いであった。暑い夏が終わわりふと気がつく短い秋となり、クルピス終わったと思いきやいきなりウォームピス▼11月29日には熊本市の金峰山では平年より46日も早く初冠雪が観測された。何とも慌ただしい季節の変化だ▼早いもので師走を迎えた。今回の休みは長い。お正月に向けて、自家製の門松をこしらえて、餅をつき、年越しそばを打ってみようかと思索している▼正月三が日は、お鏡を飾り、お屠蘇をいただき、和服姿で初詣をしたい。ここ数年慌ただしい正月を過ごしていたが今回はゆっくりと本来の日本の正月を満喫したいものだ。(か)